

会議録

会議の名称	第4回三鷹駅北口街づくりビジョン改定委員会
開催日時	令和8年4月23日(木) 18:30~20:30
開催場所	武蔵野市かたらいの道市民スペース
出席者	饗庭 伸 東京都立大学教授 大沢 昌玄 日本大学教授 田口 友子 株式会社三菱総合研究所 主任研究員 臺 孝之 三鷹駅北口周辺のまちづくり関係者 矢作 真由美 三鷹駅北口周辺のまちづくり関係者 清水 一史 公募市民 平野 亜紀子 公募市民 高橋 弘樹 武蔵野市
会議の議題	1 第3回改定委員会振り返りなど 2 緑・にぎわいの方向性について 3 改定版ビジョンの構成について 4 その他

発言者	発言の要旨
	1. 第3回改定委員会振り返りなど ～事務局より説明～
A 委員	2. 緑・にぎわいの方向性について ～事務局より説明し、その後質疑応答、意見交換～
事務局	緑を増やすとなるとコストがかかる。整備費や管理費は自治体が負担するのか。あるいは国や都が補助するのか。税金を使って行うことなので、なぜ緑が必要かしっかり説明する必要があると思う。
事務局	東京都の方針としても緑を増やすことが示されており、武蔵野市も緑化を推進していく方針である。整備や管理を行政がやるべきか、開発の機会を捉えながら民間側に整備・管理していただくのか、方法についてはこれから検討していきたい。
事務局	武蔵野市では、「緑は市民の共有財産」という理念のもと、緑化推進を行ってきた。緑は、ヒートアイランド現象の緩和や生物多様性の確保などの環境面、コミュニティの形成や健康増進、防災などの社会面、景観形成や都市農業の振興などの経済面において多様な機能があり、これらの機能を活用して発揮することで、グリーンインフラとして地域課題の解決にもつながるものと考えている。
A委員	緑の整備・管理については、インセンティブがあれば民間の協力者もでてくるのではないかなと思う。また、緑化推進の場所としては、現状既存施設が無い場所が有効活用できるのではないかな。
A委員	駅前広場の拡張を考えた場合も、東側への拡張の方が現在建築物もなく、かたらいの道や市有地へのつながりもあり、優位性が高いと思う。
B委員	駅前の緑については、これまで市民が担い手として関わる機会がなかったと思う。今後の駅前改修を契機に市民参画、多様な主体との連携を進めていけると良い。市民参画に関する現状の課題は何か。
事務局	現在、緑ボランティアの方によって維持管理の一部を担っていただいているが、高齢化や担い手が減っていることが課題。緑ボランティアの活性化など検討していきたい。
C委員	市民も緑があれば何となく心地良いと感じているのではないかな。猛暑の中、屋外空間で木陰が形成されていて玉川上水の水がある、という環境はポテンシャルが高いと思う。玉川上水の駅周辺部については整備すれば良い空間になるのではないかな。 また、にぎわい実現のためにやることとして生活利便施設(低層商業)の連続性をつくる、とあるが、どのように実現していくのか。
事務局	市民意見では生活利便施設の要望が多い。一方で、三鷹駅周辺は住宅需要が非常に大きく、市場にまかせるとそれらの施設は増えていかない可能性が高い。インセンティブ設計や土地利用方針とセットで誘導方策を考えていく必要がある。
D委員	歩いている時、特に夏の暑い日に緑の必要性を強く感じる。ウォーカブルな街を目指していくのであれば、緑や休憩できるポケットパークは必要ではないかな。どこを誰が通る・利用する時に必要と感じる緑は何か、という視点で検討することが必要だと思う。かたらいの道から補助幹線道路までは緑陰があって良い空間だが、補助幹線道路から横河グラウンドまでは緑が少ない。暑さをしのいで歩ける、といった分かりやすい効能を説明していったらどうか。
副委員長	緑の配置場所について、放射方向の連続性に重きが置かれているように感じる。環状方向として補助幹線道路の緑の位置づけはなくてよいのか。また、補助幹線道路と中央大通りやかたらいの道等の各交点がアクセントになる可能性があるのでは検討が必要と思う。

委員長	新しくできる路線はどのような街路樹が良いか。
C委員	補助幹線道路にも緑があった方が良い。樹種には多様性があると思う。例えば武蔵野・雑木を感じられる樹種など。武蔵野市しかない街路樹を検討しても良いのでは。
委員長	玉川上水の樹種選定の考え方も参考になるのではないかな。
副委員長	歩行空間を確保するためにも植栽帯を配置するのではなく、緑の空間、ベンチなどスポットで配置する方針が良いように思う。また、沿道地域の人々の街路樹という意味でも幼木を植えるという方法もあるのではないかな。
D委員	育っていくのを見るのは楽しいと思う。身近な緑を楽しみながら育てていく。ゴミが落ちていたら拾ってあげたくなるような愛着が生まれると良い。
E委員	家賃は駅からの距離の方が影響力は高いと思うが、緑が見えることはお客さんからの印象は良いと思う。駅前の整備に合わせて駅前の緑の質が上がると良い。
B委員	駅前の緑空間は、緑をきっかけに活動・にぎわいを生み出す場所として位置付けても良いと思う。
委員長	現在管理主体の差でパッチワークになっているものをまとめると良い空間にできるのでは。
委員長	緑被率の目標30%をどうやったら達成できるのか、今後の緑の基本計画で打ち出しが必要。目標値だけでは地域は受け止められないと思う。緑の質についても方策が必要では。
事務局	武蔵野市のまちづくり条例では戸数に応じて公開空地の設置を求めており、景観協議の中で公開空地内の樹種についても意見聴取を行っている。
事務局	街路樹の樹種が路線の特性となっていることもある。公開空地の緑のあり方も重要であると思う。
F委員	東京における都市計画道路の整備方針にて、ウォークアブルな道路空間整備のリーディング路線として、かたらいの道と桜通りが指定された。
副委員長	道路リメイクにあたっては、ベンチ設置のニーズも踏まえながら滞留空間と通行空間と分ける必要があると思う。
F委員	にぎわいについては、小さく分散させた空間で日常の賑わいを生み出す空間を目指していけると良い。
委員長	滞留空間の検討では、利用者の行動観察が重要である。行動観察によって利用者のニーズを発見し、そのニーズに応える居場所をどうつくっていくか考えていくことが必要。
D委員	居場所と感ずる価値観は人それぞれだと思う。この人にとってこの場所はどのような価値を持っているのか。お互いに行動観察しながらニーズを探っていく、それが市民参画でもあるのでは。
F委員	居場所としての種類は多数あると認識している。たくさん人が集まる場所、一人で落ち着ける場所など。
委員長	いろんな利用シーンを想定しながら、あり方を検討していくべき。

<p>委員長</p> <p>副委員長</p> <p>委員長</p>	<p>3. 改定版ビジョンの構成について ～事務局より説明し、その後質疑応答、意見交換～</p> <p>庁内の各部署が様々な課題をかかえているはず。駅前の再整備を契機に多くの課題が解決できるのではないか。庁内でぜひ意見を吸い上げて欲しい。例えば、居場所づくりという点については福祉の視点も必要と考える。</p> <p>交通環境、土地利用、緑・にぎわいの3分野の連携を検討いただきたい。</p> <p>緑とにぎわいが合わせて1つの柱になっている点も検討が必要。緑は独立した柱にしてもよいのではないか。分野の横連携については次回以降議論できればと思う。</p>
	<p>4. その他 ～事務局より事務連絡～</p> <p style="text-align: right;">以上</p>